

## 今年の生育状況とこれからの管理

5 月は気温も安定し、苗の生育はおおむね順調でしたが、後半は高温や強日照による葉焼けや肥料切れの苗が見受けられました。

近年、山田錦に「高品質」が求められています。心白の発現のよい大粒の山田錦を生産するためにはしっかりした茎を確保し、余分な茎（無効分げつ）を作らない、この時期の水管理が重要です。

### 田植え後～分げつ期に起きやすい「分げつ停滞」の原因・対策

主な発生原因	対策
・苗の深植えによる分げつ阻害	浅水管理
・過度の代かきによる根の酸素欠乏	間断灌水
・未熟有機物すき込みによるガス障害	数日間落水




田植え後 30 日経過したが、スムーズに分げつが進まず、下葉の黄化や株元の黒ずみがみられるほ場。  
(ガス発生による根傷みが原因。)

### ～ 田植え後 1 か月頃の管理 ～

- 葉いもち病の伝染源となる**置き苗は、速やかに除去・処分**する。
- 分げつ肥を施す場合**、豆・レンゲあとは急に肥料が効てくることがあるので**生育状況を見て加減**する。
- 田植え 1 か月後を目安に、自然落水し**中干し**に入る。
- スムーズな排水給水の役目を果たす**溝切りを、確実に実施**する。
- 溝切りは排水はもとより、酷暑時等の「急を要する入水」にも有効です。
- 中干し時期を利用して、**取りこぼしたヒエや多年生雑草を除草**する。

## 中干しと溝切り ～生育後期の水管理に向けての重要な作業～

	中 干 し	溝 切 り
効能と期待できる効果	・過剰な分げつ（無効分げつ）の発生を抑制する。 ・土中への酸素供給と、土中の有害ガスの放出が促され、根の活性が高まる。 ・田面が適当に締まり、収穫前の落水時期を遅らせることができる。	・速やかな入排水ができる。 ・秋の長雨時には停滞水をスムーズに排水できる。 ・収穫前の遅めの落水や機械収穫の条件づくりができる。 ・収穫前に乾燥した場合、「走り水」により登熟向上を促す。
開始時期	・収穫時目標穂数の 80% の茎数（分げつ）になったら開始する（1 株当たりの目標穂数を 22 本とする場合、中干し開始時の茎数の目安は、株当たり 16～18 本（坪 50 株植えの場合となる））。 ・山田錦では 7 月上中旬頃（田植え後 30 日が目安）。 ・直播の場合、移植より分げつが旺盛となるため、やや早めに開始する。（すじ播きで 1m に 80 本くらい）	・田植え後 20 日から中干しまでには開始する。 
やり方・程度	・田面に小さなひびが入り、足跡が軽くつく程度まで干す。 ・砂質田や作土層が浅い場合はやや軽めに干す。 ・湿田や作土層が深い場合はやや強めに干す。 ・いもち病発生時の強い中干しは、発生を助長するので要注意。	・溝の間隔は 8～10 条おき、溝の深さは 10 cm 以上を確保する。 ・溝は連結し、溝の末端は確実に排水口（落し口）につなぐ。
終了時期	・出穂の 30～35 日前（7 月 23～28 日頃）には終える。 ・実施期間は 7～14 日くらい。	・溝は登熟期に走り水ができるなど、収穫まで有効に利用できる。

## 中干し後の水管理 ～飽水状態の水管理を徹底～

- 中干し終了直後は**走り水程度に灌水**する（最初は湛水せず、水稻の根を水に慣らす感覚で、一気に水を溜めない）。
- 中干し後～出穂期まで **間断灌水**を行う。  
（足跡に水がたまる程度の飽水管理により、根への酸素供給と、土中のガス抜きを行う。ただし、完全には干さない。）

## 後発雑草、とりこぼし雑草の除草

- ヒエやホタルイなどが残った場合は、**落水して除草剤を散布**する。
- 散布後少なくとも 3 日間（浅水で散布する場合は 5 日間）はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しはしない**。散布後 2 日以内に降雨があると効果が不十分になる恐れがあるので、晴天が続くときに散布するのがよい。ただし、**高温時は薬害発生の恐れがある**ので注意する。



中干しの開始時期の状態（7 月 3 日）

移植栽培は株当たり 17 本前後の分げつで開始

坪 50 株植え・分げつ 17 本の株  
(7 月 3 日：田植え後 28 日)

直播栽培は 1 m 当たり 72～80 本前後の分げつで開始。



次回は 7 月下旬、穂肥についてお知らせします。